

去勢抵抗性前立腺癌に対するドセタキセル， ゾレドロン酸併用療法の治療成績

みつ い よう ぞう しい な ひろ あき
三 井 要 造^{1,2)} 椎 名 浩 昭¹⁾

キーワード：去勢抵抗性前立腺癌，骨転移，ドセタキセル，ゾレドロン酸

要 旨

DEC 療法（ドセタキセル+エストラムスチン+カルボプラチン）にゾレドロン酸を併用した DEC-Z 療法を，新規有骨転移去勢抵抗性前立腺癌（CRPC）23例に施行し，従来の DEC 療法46例の成績と後ろ向きに比較した。DEC-Z 療法では DEC 療法よりも EOD（extent of bone disease）grade の高い患者が多かったが，骨関連事象（SRE; skeletal related event）を緩和し新規 SRE の発症を予防した。50% PSA 低下率は DEC-Z 療法が 90.5%，DEC 療法が 93.5% と同等で，疾患特異的生存率は両群間で有意な差は見られなかった。DEC-Z 療法では DEC 療法と比較しトランスアミナーゼの上昇を高頻度に認めしたが，骨髄抑制の程度は両群で差は無かった。今回の検討では，DEC-Z 療法により SRE の緩和と良好な治療成績が得られたが，DEC 療法に対する優位性は見られなかった。

緒 言

前立腺癌は欧米において男性癌死亡数第 2 位の癌腫である¹⁾。本邦でも 2020 年までに罹患率が肺癌に次ぎ第 2 位となると予測されており，今後前立腺癌による死亡数は確実に増加すると思われる。近年，去勢抵抗性前立腺癌（CRPC; castration-resistant prostate cancer）にタキサン系抗癌剤であるドセタキセルが使用可能となり，進行前立

腺癌の生存期間延長に大きく貢献した。当科では CRPC の治療戦略として，ドセタキセルを基本とした多剤併用化学療法（DEC 療法；ドセタキセル+エストラムスチン+カルボプラチン）を 2001 年より導入し良好な成績を得ているが，骨転移巣における治療効果は限定的である^{2,3)}。

ゾレドロン酸は第 3 世代のビスホスホネート製剤であり，骨転移に伴う病的骨折や骨痛等の骨関連事象（SRE; skeletal related event）を緩和する目的で，前立腺癌患者にも広く使用されている⁴⁾。その他ゾレドロン酸は直接的な抗腫瘍効果を有し^{5,6)}，ドセタキセルの効果を相乗的に増強する可能性があるため⁷⁻⁹⁾，CRPC に対し両薬剤を併

Yozo MITSUI et al.

1) 島根大学医学部泌尿器科

2) 東邦大学医療センター大森病院泌尿器科（H28.4.1より）

連絡先：〒143-8541 東京都大田区大森西6丁目11-1

東邦大学医療センター大森病院泌尿器科